

大会時・コロナ禍での取組

- ・東京2020大会による人流の増加に備えて、対策を開始
- ・新型コロナウイルスの感染症拡大に伴い、社員の感染リスクを抑えるため、営業部門や管理部門等でテレワークを開始

人の流れ

きっかけ 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- テレワーク・・・・・・・・・・実施率約5割（2班が交代で出社）

物の流れ

きっかけ 以前より実施 オリバラ コロナ禍

- 取引先との配送に関する調整

- ・得意先に対し、極力薬剤の在庫を多く持ってもらよう要請（全ての薬剤の在庫をカバーできなかったわけではなかったが、東京2020大会が無観客開催となったことで、思ったほど支障はなく、スムーズな物流となった）

取組ポイント

- 既存のインフラで対応できた

取組ポイント

- 配送の遅滞は患者さんの生命を脅かすため、配送の遅延や薬剤等の在庫切れが起きないように留意
- 「大会輸送影響度マップ」等をもとに、事前に配送ルート进行シミュレーション

今後の取組

人の流れ

- 現在は、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたため、全員出社

- 今後もコロナ禍が拡大しない限り、基本的に全員出社

物の流れ

- 特に無し

【東京2020大会を振り返って】

- ・コロナ禍になってから、特別にインターネット環境等を整備したわけではなく、既存のインフラで問題なくテレワークできた。
- ・東京2020大会時はコロナ禍でもあったため、必要な薬剤の種類も増え、薬剤の物流自体が増えていた。
- ・得意先も、コロナ禍と東京2020大会が重なっている状況下では、このような対策が必要であることは理解していたため、こちらからの要請も抵抗なく受け入れられた。
- ・配送ルートをシミュレーションする際に、東京都からの「大会輸送影響度マップ」や、交通規制に関する情報を参照した。実際、遅延もなかった。
- ・東京2020大会が通常どおりに開催されていれば、恐らくより多くの問題が発生したと思うが、無観客開催だったため問題は起きなかった。
- ・無観客開催の決定をもっと早くに出してもらえれば、検討時間も少なく、余計な会議等も開かなくて済んだ。
- ・個別コンサルティングでは、自社のような患者の命に直結する医療品の物流については、例えば、交通規制が掛かっている道路でも、パスを提示すれば通行可能にする等の措置はできないかと相談したが、「個別の現場の判断で対応する」との回答であった。
- ・今後、都心部において東京2020大会のような大規模イベントが開催される際には、通常の物流と、医療等の人の命に直結する物流とは扱いを分けるべきだと思う。